

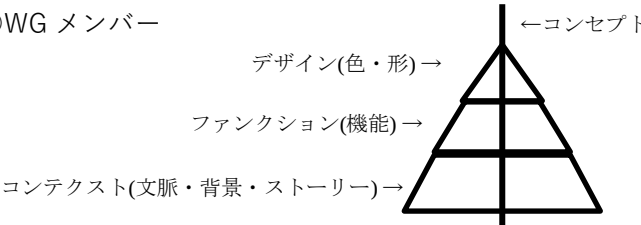
伊那市 官民共創の新しいまちづくり協議会

会議名	第2回まちなかエリア高度化 WG			
開催日	2024 年 11 月 21 日(木)			
開催時間	開会	20：00	閉会	20：40
開催場所	伊那市役所 5 階 501,502 会議室			
出席者				
協議会・WG メンバー	黒河内貴氏、鈴木孝之氏、政金裕太氏、土田智氏			
事務局・職員	企画部：有賀企画政策課長補佐、村田新産業技術推進係長、福原新産業技術推進コーディネーター			
関係者	—			
欠席者	志知貴文氏、細谷啓太氏、瀧内貫氏			
議事	1、ワーキンググループの議題・進め方について 2、今後のスケジュールについて			

議事項目	概要	次のステップ
1、ワーキンググループの議題・進め方について		
次回 WG 議題 新たな公共交通の構築	○WG メンバー ・政金裕太氏から流域治水の説明をしていただく。 ○事務局 ・次回、伊那市の公共交通の状況をインプットしたい。 ○WG メンバー ・まちなかエリア高度化 WG のロードマップに「新たな公共交通の構築」が入っている意図は何か？ ・「新たな」とは何か？ 新しい交通機関を使うことなのか、路線を変更することなのか、イメージがわからない。 ○事務局 ・高校生が増えることで、伊那北駅と伊那市駅の間が既存の交通機関でよいのか、何か他の方法があるのかご意見をいただけるとありがたい。 ○WG メンバー ・「高校生が増える」イコール「高校生がまちなかを歩く」ことになるので、高校生が使う新たな交通機関を作ったら高校生が歩かなくなってしまうのではないかと思う。 ○WG メンバー	次回 WG で政金裕太氏から「流域治水」についてレクチャーいただく。

	・現状どんな状態で、それをどうしたいか、どこに課題があるかは、全員が把握した方がよい。 ・例えばキャリアフェスで会った東部中の生徒は誰一人バスに乗って長谷には行ったことがなかった。 ・交通量だけでなく、分析できるかわからないが、どんな人たちがどんな利用をしているかという交通の質も知りたい。別の課題も見えてくると思う。 ・何が「便利」なのか、誰にとって「便利」なのか、誰にとって「新しい」のかを整理しないとふんわりとした議論になってしまう。 ○WG メンバー ・例えば最新の交通機関、無人バスといった移動手段を使ったら、その珍しさで人が集まって賑わいが出るのではないかと、何も交通機関がなくても、魅力的な場所が2つできれば、辰野町のトビチ Market みたいな仕掛けで人が動くのではないかと、色々な意見が出てくると思う。インフラ的に公共交通をどうするかというテーマでなく、その前の概念で議論しないといけない。	
ロードマップ(案)	○WG メンバー ・ロードマップに取り上げている4つのテーマについて、どういう状況で取り上げたのかをインプットしたい。公共交通だけに限らず、行政サイトから見ればまちなかエリア高度化に取り上げるべき重要なテーマであるはずなので、その背景を次回聞きたい。 ・行政サイドから一方的に与えられた4つのテーマにただ取り組むのではなく、この4つのテーマでよいのかという議論をしてもよいのではないかと。 ・あくまでこの4つでのスタートであって、これらを超えるテーマが出てきたり、このテーマはいらないとか、このテーマはもっと掘り下げたほうがよいとか、スタートの4つのテーマにそんなこだわらなくてよいのではないかと。 ○WG メンバー ・イメージとしては4つ川があるとしたら、川の太さがそれぞれ違うので、意外にあっさり解決できるテーマと、なかなか解決できないテーマがあるかもしれない。それらを整理して優先順位を付けて行く。やりながらどんどん方向が見えてくるのではないかと。	次回 WG でロードマップに取り上げられている4つのテーマについて、事務局から説明をする。
まちなかウォークアブル	○WG メンバー ・都市再生整備計画関連事業になっているからまちなかウォークアブルがロードマップに入っているけれど	

まちづくりデザイン会議	も、これを入れなきゃいけないかも議論してもよいのではないか。 ○WG メンバー ・まちなかウォークアブルは、都会の発想である。公共交通機関に元々頼っているまちが、コンパクトに暮らせるようにしましょうという話が元で、果たして伊那市が当てはまるのかわからない。 ○WG メンバー ・全体会で話のあった「まちづくりデザイン会議」について、伊那弥生ヶ丘高校将来活用 WG リーダーの平賀裕子氏からは、「いなまち」のいろいろなまちづくりの過去の経緯を説明できると聞いているので、聞いてみたい。 ○WG メンバー ・過去5年間くらいの協働のまちづくり交付金や、元気づくり支援金の応募団体、代表者をリスト化してくれると、話を聞いてみるべき人を選ぶ参考になるのではないか。 ○WG メンバー ・過去と未来、これまでやってきた人、これからやっていきたい人両方集めて話を聞いてみるのはどうか。 ○WG メンバー ・この協議会も含めて、組織図みたいなのがあったとよい。協議会があって、WG があって、その下に声かけした人たちの中で情熱を持っている人とか、元気な人とか、アイデアがある人みたいな、コアメンバーがいて、その下に実働で動く人たちがメンバーとしているような形がマインドマップで可視化されるとイメージしやすいと思った。 ○WG メンバー ・合庁前は、電柱が地中化され、山がきれいに見える。通り町も電柱が地中化されたら、伊那北駅方面から伊那市駅方面を見た時に西山が綺麗に見えるはずである。きれいな街には人が来たくなる。高遠町も地中化できているので、費用がどのぐらいかわかるのではないか。 ○WG メンバー ・電柱の地中化を最初から取り上げるのではなく、まずは課題抽出としていろいろなことをインプットし、テーブルの上にたくさん課題を載せて、そのマインドマップを作って、その後に、このまちなかエ	協働のまちづくり交付金、元気づくり支援金の応募団体、代表者をリスト化する。
電柱地中化		

流域治水の触りの話	リア高度化 WG がまず着手すべき特にこれが大事だということを決めなくてはいけない。 - いきなり最初から1つの手段に深入りしすぎず、テーブルの上に乗せて俯瞰して、その繋がりを幹、枝、葉とわかるような関係性を作って取り組んでいくイメージと思っている。 ○WG メンバー  - プランニングの3要素をピラミッド型で考えるのが1番いいと言われている。 - 高校生が増えるとか、失敗事例、成功事例というコンテキストを当面みんなで共有する期間を持ちたい。 - コンテキスト、ファンクション、デザインの3つを意識してコンセプトという柱を作る。 - 電柱の地中化はデザインに当たる。 - コンセプトからずれてないことが大事。図によっては、離れ小島の1つのブランドとかデザインができることはもちろんありで、それで解決して行きましょうという課題がこのWGから出てくる可能性もある。 ○WG メンバー - 流域と治水という言葉が一緒になった言葉。 - 流域というのは、降った雨が集まる範囲で、例えば、ここは天竜川流域で、降った雨は、天竜川に流れていく。奈良井に降った雨は、奈良井川に流れて、日本海側に抜けていく。 - 治水というのは文字の通り水を治めること。人の命を守るために川をどう治めるかという考え方。 - 一方で利水というのは水の恵み。 - 流域治水でいう治水は、治水と利水も含んだ概念で、雨の降る範囲全体で水の恵みと水のリスク両方をマネジメントしていこうという考え方。 - 最近洪水が頻発しているのは、都市化が進んで地面に水が染み込む面積が減り、アスファルトやコンクリートの上を雨が流れて1つの川に集中してしまい、堤防を造った際の想定量を超えてしまって洪水が起きるという原理である。なるべく川だけで考えるのではなく、川に到達する前に水をどうゆっくり流	
------------------	--	--

	すか、どこで貯めるか、川以外の流域全体で水を抑えていこうというのが流域治水の考え方。 ・まちなかエリア高度化に具体的に何が役に立つということではなく、概念的な話なので特に何か強く影響を与えるとも思っておらず、すでに皆さんが自然とお持ちの考え方と同じですよねという確認になると思う。	
2、今後のスケジュールについて		
		日程調整し、次回全体会の前に WG を開催する。

■今後のスケジュール

- ・ WG 開催 日時未定